

全国に広がるXMF Remote活用

オフセット印刷会社からデジタル印刷会社へ。

兵庫県西宮市に本社を置く兵田印刷工業(株)(兵田好雄社長)は、保有していたオフセット印刷機を撤廃して、デジタル機オンリーの印刷会社へと大きく変貌を遂げた。「Jet Press 720 S」を含む4台のデジタル印刷システムを駆使し、まさにオンデマンドで、「必要なものを、必要なだけ、必要な時に」といったデジタル印刷の持つ長所を生かしながら、B2サイズポスターなどの大型可変印刷と独自のマーケティング思考で、未来の印刷ビジネスを創出しようとしている。それに加えて、パートタイマーを含め総勢19人という少数精鋭で事業を行う同社は、MISと富士フイルムのワークフローシステム「XMF」「XMF Remote」を連携運用することで営業効率、制作効率をアップさせている。

同社が「XMF Remote」4月。現在4年目を迎え「XMF」を含むワークしており、初校から出力まで導入したのは平成28年を登録する「全ジョブ運用」を行っている。「XMF Remote」に関して、現在メインの顧客10数社で運用中であり、「XMF Remote」に登録しているクライアント担当者との校正指示、確認といった業務の時間短縮や効率化が図れ、クライアントと同一の働き方改革にもつながり、大きな効果が生まれているという。

少数精鋭で事業を展開している同社にとって、あらゆる業務の効率化が大きな命題である。とくにビジネスの入口、ジョブの創出を担う営業部員の効率アップは重要だ。「営業部員は本来の業務に時間を割いてもらいたい。仕事があるのを待つのではなく、お客様の求める以上の効果的な企画・商品提案を創出する活動を行い、営業部員自らが付加価値を創出するべきだと考えている。そのため、営業部員に想像力・知識を上げるための時間を増やすための経営側の努力が必要だ」と兵田社長は話す。

その一例として、「XMF Remote」を活用しているクライアントとの校正のやりとりでは、初校から「XMF Remote」のみで校正・修正・確認を行うリモートワークで行っている。そのため、入稿打ち合わせは営業部員が担当するものの、制作部の担当者が直接の窓口になつて、できるだけ営業の手

を煩わせないようにしているという。もちろん営業部員は、その間の進捗状況を「XMF Remote」や制作部などを通じてコミュニケーションができており、最終の商品の出来上がりまで手を煩わすことなく、本来の営業業務に専念できる時間が

増えている。前述したように、同社はオフセット印刷会社から完全なデジタル印刷会社へと変貌している。保有していた画面8色オフセット印刷機を撤廃したことで、工場のスペースに余裕ができたため、1部からの小ロットオンデマンドの印刷物にも柔軟に対応できる自動無線機とオンデマンドトリマーの製本システムを導入、企画提案、制作から印刷、製本までの一貫した生産ラインを構築した。

また、「Jet Press 720 S」であればオペレーターは専任社員ではなくても行えることから、女性のパート社員二人を中心にデジタル印刷部門のオペレーターを担当させたことも、デジタル印刷に舵を切った同社の経営判断の特徴の一つである。加えて、社内には大型のモニターが各所に設置されており、現在仕掛中の仕事はどういった状態にあるかの進捗状況が一目で社員一人一人が確認できるようにしている。

このように同社は「XMF」「XMF Remote」「Jet Press 720 S」を含む4台のデジタル印刷・製本システムなど、デジタル印刷に対し積極的に設備投資を行っている。それに対して兵田社長は「設備投資は社員教育だと考えている。機器の操作はノンスキルでできるが、デジタル印刷を生かしたジョブ開発を行うための知識や想像力など社員の基礎レベルを上げなければならぬ。そうすることでデジタルでしかできない部分を社員が明確に判断できると思う。現状をキープしようとしていてはだめで、生き残りのためには受注産業から創注産業にならなければならない」と説明し、「印刷会社の常識は、一般社会では非常識である、ということ絶えず念頭に置いている」と話してくれた。

営業・制作効率アップ

デジタル印刷へ舵を切る

兵田印刷工業

(兵庫県西宮市)



兵田社長



兵田印刷工業の外観



「XMF Remote」で営業業務の効率化を図る

社へと変貌している。保有するデジタル印刷システムは、富士フイルムのデジタルインクジェット印刷システム「Jet Press 720 S」と富士ゼロックスの「Color 1000 Pro」1台、「Versant 3100 Pro」2台で、とくに「Jet Press 720 S」は昨年9月に導入したシステムだ。

導入した「Jet Press 720 S」は色域が広いことからオフセット印刷よりも高品質な印刷物がノンスキルでオペレーションでき、かつ大判サイズのバリアブル印刷ができることから、「デジタル印刷にしかできない」ことを積極的に展開することを目指している。さらには、保有していた画面8色オフセット印刷機を撤廃したこと

で、工場のスペースに余裕ができたため、1部からの小ロットオンデマンドの印刷物にも柔軟に対応できる自動無線機とオンデマンドトリマーの製本システムを導入、企画提案、制作から印刷、製本までの一貫した生産ラインを構築した。

また、「Jet Press 720 S」であればオペレーターは専任社員ではなくても行えることから、女性のパート社員二人を中心にデジタル印刷部門のオペレーターを担当させたことも、デジタル印刷に舵を切った同社の経営判断の特徴の一つである。加えて、社内には大型のモニターが各所に設置されており、現在仕掛中の仕事はどういった状態にあるかの進捗状況が一目で社員一人一人が確認できるようにしている。



オフセット印刷機を撤廃し「Jet Press 720 S」を含め4台のデジタル印刷機で業務を行う